第192号 2023年6月号（1）

一般社団法人 都城国際交流協会会報
MIA NEWS
ミア　ニュース

編集発行:一般社団法人都城国際交流協会
〒885-0073 都城市姫城町4-1
都城市役所北別館 都城市国際交流センター
電話 0986-23-2295 FAX 0986-23-3223
http://miyakonojo-mia.com/
E-mail mia@btvm.ne.jp

都城農業高等学校 ALT ルイス・キャンベル　～いつもと違う道～

旅行好きな　ルイスさん

私は、都城に滞在して5年目かつ最後の年の終わりが近づき、この多少田舎の、とっても綺麗な街のベテランになったと感じます。第二の故郷と言えるようになった都城近辺には、面白いことや素敵な体験ができることが多いので、今日、この地域の「秘宝（穴場）」の一部を紹介したいと思います。暖かくなり、日（日照時間）が長くなっていますので、外に出かけて探検しない言い訳なんてありませんね！

まず訪ねるべき場所は長田峡です。この峡谷には緑が多く、水が透き通り、癒されるオーラを持つ空気があります。峡谷自体も「非常に美しいですが、小鳥のさえずりに合わせて、自然を楽しみながらリラックスするのに快適な場所です。道沿いにカッパの石像があり、橋から絶景の写真が撮れます。峡谷の近くに駐車場がありますので、アクセスも楽です。

赤鬼が振り向くのを待っています！その気持ちに耐えて！

次に見落とせないのは東霧島（つまきりしま）神社です。神々しく、スピリチュアルな場所です。樹齢千年以上の大楠があり、長い、傾斜のきつい、999個の石を積んだと言われる鬼磐（おにいわ）階段があります。疲れを伴うこの階段を登る前、その階段の麓に赤鬼がいます。登っている途中は後ろを振り向いてはいけないそうです！そうすると恐らく登る前に挨拶した門番の鬼から悪運が訪れるそうです。階段を登り切ったその上に神社があり、蝋燭や線香を買って供えることができます。神社から出る時、入口まで続く曲がりくねった道があります。東霧島神社に行く時は、歩きやすい靴を履いた方がいいです！

紹介したい三番目の場所は宮崎県内で一番気に入っているところです。石山観音寺と言い、都城市の最高の穴場です。お寺までの道は実に現実離れしています。苔まみれの階段に繋ぐ道の真ん中に優美な小川が流れています。木を登るサワガニたちもいます！階段を登れば目を引くほど真っ赤なお寺があります。自然に囲まれて、リラックスできる素敵なところです。この素晴らしいお寺に行かれる時は、また歩きやすい靴を履き、雨の日は苔の階段があるので、足元に気を付けください。お寺までの道は長くてくねくねしていますが、頂上には駐車場があり、この綺麗な観光スポットの入り口に隣接しています。

お寺の苔まみれの階段
雨の日にはカニが一緒に階段を登ります！

四番目、そして今日最後の秘宝は、ある滝ですが、関之尾滝ではないです！関之尾の魅力を皆さんよく御存知だと思いますが、他に行くべき滝は桐原の滝です。関之尾から車で10分ほどで、都城市の近く、曽於市の境に位置しています。夏に行くとリラックスでき、滝の真下にある水溜りで泳ぐことができます。かなり人里離れた場所なので、人が少なく、滝の落下の近くまでに行けます。車で行くと坂道がありますが、一番下まで行かなくていいです。途中、駐車できるところが左側にあり、そこから階段に沿って進めば滝に着きます。この4カ所は都城周辺にある穴場の一部です。この5年間、毎週末、非常に美しい宮崎県のあちらこちらに行き、この県に来られて本当に良かったです。都城の市民と同じ街に住む経験が人生の中で一番大切な時間だと思っています。これほど魅力溢れている都城のおかげで人として成長できました。この素敵な場所を是非訪れてみてください。第2の故郷になった都城、本当にありがとうございました。

ルイスさんの携帯で撮った桐原の滝の写真

「ノーカーデー」
～都城市モンゴル国際交流員 ヒシゲさんによるモンゴル紹介～

モンゴルの人口は340万人で、総人口の約5割が首都ウランバートルに住んでいます。ウランバートル市は人と車の増加に伴い、排気ガスなどによって空気が汚れています。その問題を解決するために政府が取り組んでいることの一つは「ノーカーデー」です。

2009年から毎年5月末に、ウランバートル市中心部にあるスフバートル広場あたりの中央道路において「ノーカーデー」が実施されています。午前7時から午後6時まで交通規制があって、緊急車両を除き、全車両が通行できません。

車道を自由に歩くウランバートル市民

「ノーカーデー」は空気汚染の問題だけではなく、市民に体育とスポーツの良さや、余暇に体を使う楽しさを知ってもらう目的で企画されました。この日に「ウランバートル国際マラソン大会」や様々な面白いパレードなどが行われます。

ウランバートル国際マラソン大会

10キロ走り切って、ゴールに立つヒシゲさん

マラソン大会の参加者が年々増加していて、去年の大会はモンゴル人以外にも20か国からの参加があり、合わせて約3万人が出場したそうです。

市内は普段より人で賑わう「ノーカーデー」はウランバートル市民の待ちに待つ大切なイベントの一つです。私も毎年、マラソンに参加したり、家族と思い切り、車道を歩いたりして楽しく過ごしていました。

「中国の子供関連の祝い事」
～都城市中国国際交流員 河 連英さんによる中国紹介～

生まれた子供の健やかな成長を願うのは、どの国も同じ。今回は、中国で行われている、赤ちゃん・子供の祝い事・風習を紹介します。

中国の子供の日

毎年6月1日は中国の子供の日で、男の子も女の子も同じ日です。

中国語では「六一国际儿童节」と言い、日本語では「六一国際児童節」、英語では「International Children's Day」です。私が子供の頃は、この日に、いつも両親が遊園地へ連れて行ってくれて、非日常を過ごしました。しかし、今の子供たちにとって、遊園地はもう珍しくないので、学校ごとに子供たちのためのイベントが行われたり、プレゼントを贈ったり、レストランで子供の好きな物を食べたりします。

満月

赤ちゃんがうまれて1か月が経つと、中国では「満月」と言います。中国の風習として、その日に親戚や親しい友人を招き、お祝いの宴会を行います。招待された客は、ご祝儀やお祝い品を持って宴に出席します。昔は赤ちゃんが1か月生きられたということは、大きな困難を一つ乗り越えたということが由来です。

100日

赤ちゃんが生後100日になると、中国では「百日」のお祝いの宴を行います。

百日宴を「百歳宴」とも呼び、「赤ちゃんが100歳まで生きられるように」との願いが込められています。赤ちゃんはこの日に初めて髪の毛を切り、髪の毛（胎毛）で筆を作る文化があります。

「百日宴」で、ある赤ちゃんが貰ったもの

1歳

中国で赤ちゃんの1歳の誕生日はとても大切です。同じく祝宴を開き、伝統的な儀式を行います。その中でも目玉となるのが「抓周（zhuā zhōu / ジュワジョウ）」（選びとり）です。

子供の将来を期待しながら、そろばんや糸、お金などを並べ、赤ちゃんに選んでもらいます。

その後

その後は、毎年誕生日を過ごします。両親や友達が子供本人のお祝いをするのはもちろん、子供の誕生した日はお母さんが出産で一番大変だった日でもあるため、子供がお母さんへの感謝を示す日にもなっています。

以上が中国の赤ちゃん・子供に関連するお祝い事でした。

ある中国の赤ちゃんの1歳の誕生会

Aussie Bites（オーストラリアを、ひとかじり!）

～都城市オーストラリア国際交流員　ジョージさんによるオーストラリア紹介～

ベジマイトの100周年！

今年の10月25日はベジマイトの100周年です！ベジマイトのホームページにベジマイトを使うレシピ集があり、その中で一番気に入りのはやはり「タイガー・トースト」です。トーストにバターとベジマイトを塗り、チーズ切れを乗せ、チーズが溶け始まるまでにグリルで焼きます…これより良い朝食がない！

右の写真は、ジョージさんの朝食の大好物：ベジマイト上にチーズを乗せたトースト。香ばしくて、乳酸菌も取れるから、一押しのメニューだそうです。

インフォメーション　～他団体等からのお知らせ～

◆外国人のための日本語講座（都城市）◆

ひらがな、カタカナから勉強する日本語講座（初級）を開催します。受講料は無料ですが、1,100円程度のテキスト代を徴収することがあります。外国人の方へお知らせください。

日時：R5年7月10日～8月14日の月曜日と木曜日
（全10回）13：30-15：00　※7月17日は休講
場所：市役所北別館　定員：10名　6月30日締め切り
【申込み・問合せ】
都城市国際化推進室　TEL：0986-23-2295
Mail：intl@city.miyakonojo.miyazaki.jp

◆キーウ・クラシック・バレエ◆

チャイコフスキー 夢の3大バレエ「くりみ割り人形」「白鳥の湖」「眠れる森の美女」より　名場面集（3歳以下入場不可）

文化の秋の始まりに歴史と芸術にあふれるウクライナのバレエ団の豪華な舞台鑑賞はいかがでしょうか。

日時：　2023年9月5日（火）開演：18:30　（開場18:00）
チケット：　一般　5,000円、　高校生以下　2,500円、
ペア割 8,500円、　親子割　5,500円
問合せ：　都城市総合文化ホール
代表 TEL：　0986-23-7140

編集部より

話題となっていたインド映画「RRR」を観ました。ストーリーは破茶滅茶でしたが、演出と映像の圧に圧倒されました。「細かいことは気にしない。映画とは、浴びるものだ！」という評論を見ましたが、まさにそのとおりでした。特に、「Naatu」という曲のダンスの場面は、上質なMVといった感で必見です。インドの映画制作本数は、映画大国アメリカをも超えるという話は聞いていましたが、実際観たのは初めてだったので新鮮でした。映画には、その国の文化のエッセンスが出るものだと思うので、調べてみていろいろな国の映画を見てみようと思います。　［徳留］

皆さん、こんにちは。
今回から懲りずに『全国行ったつもりでぶらり旅コメン』トのつづき『三重県』からはじめまぁーーすm(　。)m
三重県の県庁所在地といえば、日本一短い市町村名でもある「津（つ）市」です。
名前の由来は、当時、中国との貿易港の一つとして流通拠点の機能を果たしていたと考えられ、「港（みなと）」という意味で「津（つ）」と呼ばれるようになったのだとか…
宮崎にも日南市油津（あぶらつ）がありますが、確かに港ありますね(@_@;)
［西畑］

6月と言えば梅雨とか夏至とかが真っ先に頭に浮かびますが、実は大切なイベント、父の日がありますね！我が家では父の日になると、甘党の父のためにケーキを買ってきてお祝いします。父は70歳を超えた今でも働いており、今年は公民館の班長も回ってきて多忙な日々を送っています。そんな父を労うためにも、今年はケーキ以外のものもプレゼントしたいと思います。　［川内］

都城市に来て1か月以上経ちました。週末にリフレッシュのため、温泉へ行ってみました。バスに乗ろうとしたら下車する人とぶつかりそうになり、皆、不思議な顔をしていました。街のバスに乗るのは約10年ぶりで、後ろのドアから乗ることをすっかり忘れていたのです。地元の人には不要かもしれませんが、バスの案内板が東京のように詳しくなかったため、乗り間違いがとても心配でした。そこで、念のため、すぐ運転手さんに確認したら、反対行きに乗ってしまっていました。直ちに下車し反対側に移動し、バスを待ちました。バスで移動し、少し歩き、やっと温泉につきましたが、なんと9時営業開始でした。事前に調べたネット情報には6時半開始と表示されていたので、がっかりでした。帰りもバスにしようと思いましたが、次のバスまで待ち時間が長かったので、歩いて帰ったほうが早く着くかもしれません。車はたくさん走っていましたが、道を歩く人があまりいないので道に迷っても、尋ねようがありませんでした。電波が繋がって帰るルートを調べられたらいいなと思いながら、勘で歩いて戻ってきました。公共交通機関と携帯電話の通信がこれまでの生活では当たり前すぎて何とも思わなかったのですが、都城市に来て初めてその大切さ、ありがたさを痛感しました。　［かれん］

先月のコメントに日本のなぞなぞを入れましたが、どうでしたか？日本のなぞなぞでしたら皆さんは答えを即答できると思います！では、「山羊が10匹集まるとどうなる？」って、分かりますか？正解は、「トウメー（透明）になる」！
私は、なぞなぞの答えがわからなくても、答えを見て納得できれば満足です。例えば：「What has 13 hearts, but no other organs?」
答えは来月号になります！お楽しみに！　［ジョージ］

皆さん、サェンバェノー。
私の趣味の一つは読書です。モンゴルの文学が大好きです。この間、一緒に仕事をしているある方と本について話をしたら、沢木耕太郎の「天路の旅人」という本を貸してくださいました。興味津々で読んでいます。また、私は並行読書をします。今、「天路の旅人」と川端康成の「千羽鶴」を読書中です。皆さんも、お勧めの本があったら、私に教えてくださると嬉しいです。［ヒシゲ］

NHK朝ドラマ「らんまん」は植物学者の牧野富太郎の人生をモデルにしたものですが、霧島連山を代表する植物「ミヤマキリシマ」は「深い山に咲くツツジ」と、この牧野富太郎によって名付けられたものだそうで、1909年のことだそうです。長く霧島山に行っていませんが、今年は池巡りから再開しようと思っています。　［藤元］

娘がとうとう英会話教室デビューしました。その後すぐにジョージのご両親や元国際交流員のクイルさん家族に会う機会があり、英語での挨拶に挑戦しました。外国語が通じた喜びを感じているようだったので、これからも楽しんで英会話を続けてくれるといいなと思っています。　［迫田］

私を初めて日本に招待してくださった恩人とその親戚の方と十年ぶりに再会しました。お会いしたとたん、今までの10年間がまるでどこか飛んでいったかのような不思議な感覚でした。おもてなし、思いやり、感謝の気持ち、お礼の気持ち、助け合い、勉強の大切さ、交流の大切さ、優しさ、親切さ、家庭的雰囲気、友情、近所さんとのお付き合い、美味しいもの、楽しい旅、日本の歴史と文化、日本語など数え切れないほどの貴重なことを教えてくださった大切な方々です。そのご家族の方々のおかげで、日本が大好きになって、もっともっと勉強したい気持ちが沸いたのが昨日のことのようです。当時、モンゴルのごく普通の大学生に、日本の扉を大きく開けてくださった恩を一生大切にしながら、第2の故郷となった都城から心よりお礼を申し上げます。　［ソヨ］